

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 夢をかたちに (Scale up your Dream, and Build up your Future.)

生徒が自らの進路に夢や希望を抱き、高い志を持ってその実現に向けて必要な力を身に付けるとともに、地域社会に積極的に参画し貢献できる人材を育成する学校をめざす。

## 【生徒に育みたい力】 日根野高等学校 校訓「自立・共生・友愛」

- 1 高校三年間の様々な体験的学習を通し、発見・驚き・感動を自信に繋げ、将来の夢を見定め実現していく力。
- 2 地域社会の発展に寄与するための高い志を持ち、自らを律し社会人として自立する力。[自立]
- 3 異文化や異なる価値観を理解し、身の周りから世界に至るまでの様々な人々と共生できる力。[共生]
- 4 ボランティア活動等の実践を通し、基本的人権を尊重し社会に奉仕貢献できる力。[友愛]

## 2 中期的目標

## 1. 授業改善を行い「確かな学力」を育成し、生徒の進路実現をめざす

(1) 主体的・対話的で深い学びを探究し、「発想力」「課題解決能力」「主体的に学ぶ力」を育成する授業の実現をめざして授業力の向上に取り組む。

ア、教員間の相互授業観察や研究授業を推奨し、授業アンケートを活用した振り返りを丁寧に行い、授業力向上に取り組む。

イ、ICT 機器を効果的に活用し、生徒個々の能力に応じた最適な学びを提供する。

ウ、授業における生徒の言語活動を活性化し、主体的で対話的な学びを提供し、学びの深化をめざす。

※授業アンケート総合スコア(令和7年度には3.3以上(R2 第1回3.21 第2回3.18、R3 第1回3.25 第2回3.22、R4 第1回3.29 第2回3.31)を維持する)

※生徒向け学校教育自己診断「ICTを活用した授業への満足度」(令和7年度には85%以上(R3 80%、R4 84%)とする)

※授業アンケート「考える時間や発表する活動を多く取り入れている」

(令和7年度には3.3以上(R2 第1回3.20 第2回3.20、R3 第1回3.25 第2回3.28、R4 第1回3.30 第2回3.30)を維持する)

(2) 特色ある専門コースを持つ普通科高校として、コースに特化した進路実現をめざす。

ア、コースや科目選択時のガイダンスを充実させ、生徒の進路実現を適切に支援する。

イ、本校のキャリア教育「ひねのプログラム」を推進し、生徒一人ひとりの夢の実現に向けて取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断「コース選択・科目選択への取り組みに関する満足度」(令和7年度には85%以上(R2 85%、R3 86%、R4 88%)を維持する)

※看護・医療系進学者数(令和7年度には25%以上(R2 29%、R3 24%、R4 24%)を維持する)

※幼児教育・保育系進学者数(令和7年度には5%以上(R2 4%、R3 4%、R4 6%)を維持する)

※国公立大学・難関私立大学(関関同立・産近甲龍)進学者数(令和7年度には10%以上(R2 7%、R3 6%、R4 3%)とする)

(3) 生徒一人ひとりに対して丁寧で細やかな指導を行い、夢の実現を支援し、生徒・保護者の満足度を向上させる。

ア、志学・道徳教育・人権教育・キャリア教育・進路指導を系統的に結合したキャリア教育「ひねのプログラム」を活用し、生徒の能力を伸ばす。

イ、分野別進路説明会を開催するとともに、進路に特化した専門学校等の講師を積極的に招聘し、講習、講話の機会を確保し、進路の実現を支援する。

ウ、魅力ある教育活動や進路実現を提供し、もっと入りたい学校の実現をめざす。また、広報活動を積極的に行い、入学志願者を確保する。

※生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方をよく考える機会がある」(令和7年度には90%以上(R2 92%、R3 89%、R4 94%)を維持する)

※入試志願者倍率(令和7年度には1.15倍以上(R2 1.21倍、R3 1.23倍、R4 1.19倍)を維持する)

## 2. 豊かでたくましい人間性をはぐくむ

(1) 人権・多様性を尊重する教育を推進し、差別やいじめを許さない意識、なくす実践力を育てる。

ア、「大阪府いじめ防止基本方針」に従い、全校でいじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組む。

イ、社会性にも繋がる生活習慣の確立、挨拶の励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成等を図る。

ウ、障がい者・女性・子ども・同和問題・在日外国人・性的マイノリティ等様々な人権に関わる問題の解決をめざした教育を推進する。

※生徒向け学校教育自己診断「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応」(令和7年度には85%以上(R2 79%、R3 85%、R4 89%)を維持する)

※のべ遅刻者数/4-12月(令和7年度には2,500人以下(R2 2,948人、R3 2,882人、R4 3,632人)とする)

(2) 急速な情報化の進展に伴うインターネットトラブルの増加に対して、正しい情報モラルを育成し、望ましい人権意識を育てる。

ア、インターネット上の諸問題に対し、教科「情報」の授業やHR等を通して指導しトラブルを未然に防ぐ。

イ、保護者と教職員とが連携を深め、学校、保護者、地域が一体となった人権教育の充実を図る。

※生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった」(令和7年度には85%以上(R2 78%、R3 80%、R4 81%)とする)

※保護者向け学校教育自己診断「保護者の相談に適切に対応してくれた」(令和7年度には85%以上(R2 86%、R3 88%、R4 91%)を維持する)

(3) 部活動、学校行事、ボランティア活動等への参加を通して、生徒の自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育成する。

ア、地域の施設等とも連携し、発信・発表の場を多く設けることで、生徒が社会の一員としての自信と自覚を深め、社会貢献の意義と尊さを理解させる。

イ、部活動、学校行事を活性化し、生徒が自主的に活動、運営することにより、自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育てる。

ウ、生徒会活動等を通して、生徒の自主性・自律性を育成し、生徒が主体的に自己実現を図る力を育てる。

※部活動加入率(令和7年度には65%以上(R2 66%、R3 62%、R4 55%)とする)

※生徒向け学校教育自己診断「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」(令和7年度には85%以上(R2 73%、R3 88%、R4 88%)を維持する)

※生徒向け学校教育自己診断「先生の指導は納得できる」(令和7年度には80%以上(R2 73%、R3 73%、R4 79%)とする)

(4) 保護者へ情報提供を積極的に行うと共に、保護者等の意見を教育活動に取り入れ、開かれた教育活動を推進する。

ア、多様な手段を用いた情報発信を行うとともに、情報収集を積極的に行い、意見を反映した学校経営を行う。

※保護者向け学校教育自己診断「教育活動に関する満足度」(全項目の平均)(令和7年度には85%以上(R2 80%、R3 85%、R4 85%)を維持する)

※保護者向け学校教育自己診断「教育情報についての提供努力満足度」(令和7年度には90%以上(R2 87%、R3 93%、R4 91%)を維持する)

## 3. 安全で安心な学び場を作るとともに、働き方改革を実現する

(1) 障がいのある生徒への理解を深め、SCとの連携を図りながら合理的配慮や自立の支援を行う体制づくりを行う。

ア、支援を要する生徒について個別の支援計画を作成し、生徒一人ひとり教育的ニーズを把握し、効果的な指導、支援の充実を図る。

(2) 生徒が相談しやすい体制を構築し、関係機関と連携を深めながら、生徒支援体制の充実を図る。

ア、体罰やハラスメント・ネット被害・ストーカー被害等に係る相談などに対する相談体制を構築し、生徒に寄り添う学校づくりを進める。

※生徒向け学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談することができる先生がいる」(令和7年度には75%以上(R2 71%、R3 66%、R4 77%)を維持する)

(3) 危機管理を徹底し、安全で安心な学び場づくりを推進する。

ア、講習会等を定期的で開催し、感染症、薬物中毒、食中毒等の予防や防止、熱中症や食物アレルギー等による事故防止に取り組む。

イ、地震や台風などの自然災害に備えた体制を充実させ、避難訓練の実施等を通して防災教育に取り組む。

(4) 教員の働き方改革に取り組む。

ア、業務の電子化を進め、事務作業量を軽減するとともに、会議の精選、会議時間の短縮を行い、校務運営の効率化に取り組む。

イ、全校一斉退庁日の取り組みを推進し、教職員の時間外在校時間の縮減を図る。

※「学校ストレスの総合リスク値」(令和7年度には95以下(R2 91、R3 85、R4 87)を維持する)

※「時間外在校時間」(令和7年度には26時間以下(R2 28時間、R3 28時間、R4 27時間)とする)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]					学校運営協議会からの意見				
1. 回答者					第1回学校運営協議会（5月26日開催） 質問：学校教育自己診断におけるコース・科目選択満足度のR1年度が高く、2・3年度が低かったのはなぜか 回答：2・3年度はコロナ禍の影響で下がった可能性があるのでは 質問：教員の時間外在校時間は減っているが、仕事量は減らない中で家に仕事を持ち帰っているのではないか 回答：校務の電子化で資料準備（印刷等）の時間削減や、授業でタブレットを活用することにより生徒との課題等のやり取りがスムーズになるなど、負担軽減となっている。4月、5月は部活動で、土日出勤することも多かったが、平日は定時で帰ることも多くある。会議時間の縮小、時間外電話対応をやめることなどで削減ができています 意見：ネット社会で情報過多な世の中、子どもたちにも様々な情報が飛び交う。命の大切さや社会ルールを学ぶ機会を大切にしてほしい 意見：ショッピングモールの工事を予定している。その際にできる白壁に日根野高校の美術部の生徒などのイラスト、作品をお願いできないか考えている。また、吹奏楽部の発表など、コロナ禍も収束してきたので依頼したいと考えている 質問：昔、教師は厳しいものというイメージだったが、現代の先生方が親しく歩み寄る雰囲気は、子どもたちもやりやすいと思っ 回答：クレームなどはほとんど聞いたことがなく、協力的な方が多い。いわゆるモンスターペアレントといわれるような意見はない 質問：本校でも生徒は先生に対して「タメ口」といわれる対応か 回答：部活動などきちんとすべきところでは指導している。先生に親しみがあるのはいいことだが、社会のルールを学ぶべきところなので、先生自身もわきまえることも必要だと思っている 意見：先生と生徒の間に壁は必要ないが、一線（ケジメ）は必要だと思う				
2. 実施時期 令和5年12月									
3. 実施方法 (生徒) Web 回答、(保護者) (教員) Web 及び用紙による回答									
令和5年度学校教育自己診断（生徒）									
		5年度 肯定回答	増減	4年度 肯定回答					
1	学校に行くのが楽しい	78.1%	-5.8%	83.9%					
2	学校生活についての先生の指導は納得できる	73.9%	-5.2%	79.1%					
3	自分の将来の進路や生き方について、よく考える機会がある(あった)	91.0%	-3.0%	94.0%					
4	コース・科目選択をする上で学校での取り組みは役に立った	84.5%	-3.8%	88.3%					
5	ICT(情報通信技術)を活用し、わかりやすい授業が行われている	83.5%	-0.5%	84.0%					
6	日根野高校は、1人1台端末を効果的に活用している	79.7%	-1.9%	81.6%					
7	先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる	86.9%	-2.3%	89.2%					
8	担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる	76.5%	-0.3%	76.8%					
9	日根野高校で、命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった	80.4%	-0.3%	80.7%					
10	学校行事(文化祭、体育祭、校外学習など)は、楽しく行えるように工夫されている	81.9%	-6.4%	88.3%					
11	日根野高校に入学してよかった	89.9%	-4.3%	94.2%					
総合的評価(全項目平均)		82.4%	-3.1%	85.5%					
令和5年度学校教育自己診断（保護者）									
		5年度 肯定回答	増減	4年度 肯定回答					
1	お父さんは、学校に行くのが楽しいと言っている。またはそう感じられる	84.8%	3.1%	81.7%					
2	お父さんは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。またはそう感じられる	60.6%	-5.2%	65.8%					
3	日根野高校の先生は、保護者の相談に適切に対応してくれた。	85.6%	-5.7%	91.3%					
4	日根野高校の生活指導(遅刻・携帯・制服・髪型など)には共感できる	82.8%	1.3%	81.5%					
5	日根野高校では、お父さんの将来の進路や職業などについて適切な指導が行われている	89.7%	-0.6%	90.3%					
6	日根野高校は、お父さんに対して「命を大切にすること」や「社会ルールを守る態度」を育てようとしている	83.9%	-0.3%	84.2%					
7	学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる	84.5%	-0.8%	85.3%					
8	保護者懇談以外の授業参観や学校行事、説明会等のために、日根野高校に行ったことがある	62.4%	4.8%	57.6%					
9	日根野高校は、教育情報について、提供の努力をしている	88.8%	-1.9%	90.7%					
10	お父さんを日根野高校に入学させてよかった	91.7%	-3.4%	95.1%					
総合的評価(全項目平均) ※項目「8」を除く		83.6%	-1.5%	85.1%					
令和5年度学校教育自己診断（教職員）									
		5年度 肯定回答	増減	4年度 肯定回答					
1	学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている	91.5%	3.1%	88.4%					
2	教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている	83.0%	-5.1%	88.1%					
3	カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている	83.0%	-0.7%	83.7%					
4	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる	97.9%	7.4%	90.5%					
5	いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる	93.6%	2.9%	90.7%					
6	生徒が望ましい勤務観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている	72.3%	-18.4%	90.7%					
7	生徒一人ひとりが興味・関心や適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている	89.4%	1.0%	88.4%					
8	学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている	87.2%	-3.5%	90.7%					
9	教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている	93.6%	0.6%	93.0%					
総合的評価(全項目平均)		87.9%	-1.4%	89.4%					
【総論】(○)									
昨年度からは、生徒評価の肯定的回答率が低下をし、保護者と教職員評価では項目により評価が相半ばをして、トータルではわずかに低下をしている。									
昨年度よりは下がっている項目がみられるが、 <u>長期的な視野でみれば改善傾向にあり</u> 、また、全ての項目の平均では、生徒82%、保護者84%、教職員88%が肯定的な回答であり、 <u>全体を通して高い評価が示され、良好な状態が維持できている</u> と考えられる。									
【総合的な項目について】(△)									
登校満足度は、生徒で低下し、保護者で上昇をしている。入学満足度は生徒保護者ともに低下をしている。全体としては下がってはいるが、 <u>いずれも高い満足度を示している</u> 。下がっていることに対しては、 <u>次年度に向けた課題</u> であると考え。									
【学習指導について】(○)									
生徒評価は横ばいであり、保護者評価は肯定的回答率が低下をしている。ICT機器を活用した主体的で対話的な授業展開を学校全体で推進しており、 <u>生徒からは極めて高い満足度が得られている</u> 。									
【生徒指導について】(○)									
生徒評価で少し下降をし、保護者評価は横ばいであった。 <u>いずれの結果も高い数値であり、生徒指導に対する満足度には高いものがある</u> 。									
【進路指導について】(○)									
生徒評価は下降をし、保護者評価は横ばいで合った。 <u>いずれも高い数値を示しており、進路指導に対する満足度は高いものがある</u> 。教職員評価の「 <u>系統的なキャリア教育</u> 」が大きく下がり、 <u>原因の分析と改善策の検討が必要</u> と考える。									
【教育相談について】(○)									
コロナ禍を受けて、学校全体の課題として取り組みを行っている。結果として、 <u>生徒評価は昨年度大きく向上し、その状態を維持することが出来ている</u> 。保護者評価は今年度下降をしているが、 <u>依然として高い数値であり、教職員の意識も極めて高いものがある</u> 。									
【行事、情報発信などについて】(○)									
行事に対する生徒満足度は少し低下をしている。教職員評価も下降しており、 <u>コロナ後の学校行事についての検討の必要性を感じる</u> 。情報提供に関しては、 <u>極めて高い満足度を維持出来ている</u> 。									
第2回学校運営協議会（10月20日開催）									
授業見学を受けての意見									
・楽しそうに授業を受けていた印象									
・高校生が自由に楽しそうに授業を受けている印象。中学校とは異なる授業であった									
・先生方が工夫されている授業であった。また学年が上がるにつれて授業の生徒の集中力の差を感じることができた。また高校在学中の学習内容をきちんとしているのでも、専門学校などでも基礎を持って進学されているのではと感じた。更には専門学校教員との交流などができればと考えている									
質問：物価高騰にともなう、学食の経営はどうなっているか									
回答：日根野の学食経営者は近隣高校3校を扱っている。また値上げについて、申請があり承認をしている。撤退などの予定はない。学食の経営については昨年度に活性化事業として、1年生に500円分の学食券を配付した。今年度は3学年すべてにおいて学食券を配付予定(1年生は配付済み)									
意見：進路決定後の生徒への対応に非常に共感できる。今後もぜひとも社会人としての基礎知識やマナーなどの指導を学校からしていただけることがありがたいと感じている									
第3回学校運営協議会（1月19日開催）									
質問：時間外在校時間が大幅に減少とのことだが、何か改革をしたのか									
回答：グループウェアのアプリを活用して、校務の電子化を進め時間を短縮した。また、会議の時間も大幅に削減した									
意見：企業では、働き方改革に向けてアンケートを取り、特定の店舗で試験的に対策を講じて、その結果を検証している									
質問：結果として、家庭に仕事を持ち帰っているということはないのか									
回答：いつでも情報を見れてしまうので、つい作業をするということはあるが、持ち帰りの仕事が増えているということはない									
質問：看護医療系の志願者が減っているとのことだが、なにか原因があるのか									
回答：他校に同様のコースができたことや、全体として4年制大学志望者が増えていることが可能性としてある。しかし、中学生対象の説明会では、依然として看護医療系の問い合わせが多い									
質問：遅刻者に対して、詳しく理由を確認することはしているのか									
回答：二学期から、「遅刻理由」と「次に向けてどうするのか」について、遅刻者全員に書かせるようにした。コロナ禍前に比べて、軽い体調不良での遅刻が大幅に増えていると感じる。この時期の経験から、学校を休む・遅刻することへのハードルが下がっている可能性があるのでは。遅刻に関しては、絶対にいけないものとして、さらなる対策を検討中である									
質問：入学したばかりの時期に進路を考えさせる時間はあるのか									
回答：総合的な探究の時間で、進路に向けていつから準備が必要かなどの指導をしている									

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1. 授業改善を行い「確かな学力」を育成し、進路の実現をめざす	(1) 主体的・対話的で深い学びを探究し、「発想力」「課題解決能力」「主体的に学ぶ力」を育成する授業の実現をめざして授業力の向上に取り組む	ア、教員間の相互授業観察や研究授業を推奨し、授業アンケートを活用した振り返りを丁寧に行い、授業力向上に取り組む イ、ICT 機器を効果的に活用し、生徒個々の能力に応じた最適な学びを提供する ウ、授業における生徒の言語活動を活性化し、主体的で対話的な学びを提供し、学びの深化をめざす	ア、授業アンケート総合スコア 3.3 以上を維持[第1回 3.29 第2回 3.31] イ、生徒向け学校教育自己診断「ICT を活用した授業への満足度」85%以上[84%] ウ、授業アンケート「考える時間や発表する活動を多く取り入れている」3.3 以上[第1回 3.30 第2回 3.30]	ア、授業アンケート総合スコア [第1回] 3.41 [第2回] 3.42 (◎) 『生徒の授業に対する評価は、目標を大きく上回った。授業改善が進んでいると評価できる』 イ、「ICT 活用授業を行った教員」への満足度 (83.5%) (△) 『目標値にはわずかに届かなかったが、昨年度に引き続き高い数値を示している』 ウ、授業アンケート「考える時間や発表する活動」[第1回] 3.34 [第2回] 3.38 (◎) 『授業アンケートの結果は、目標を大きく上回り、学習指導要領の主旨に沿った授業改善が進んでいる』
	(2) 特色ある専門コースを持つ普通科高校として、コースに特化した進路実現をめざす	ア、コースや科目選択時のガイダンスを充実させ、生徒の進路実現を適切に支援する イ、本校のキャリア教育「ひねのプログラム」を推進し、生徒一人ひとりの夢の実現に向けて取り組む 「ひねのプログラム」 ・定期的に「進路意識調査」を実施し、進路に対する意識を明確化させ、知識を高める ・講師を招き、希望する進路に分かれての講話や説明会を実施する ・総合的な探究の時間を活用し、進路に関する探究活動を実施する	ア、生徒向け学校教育自己診断「コース・科目選択への取り組みに関する満足度 88%以上を維持[88%] イ、国公立・難関私立大学(関関同立・産近甲龍)の合格者数 20 名以上[8 名] ・幼児教育・保育系合格者数 10 名以上[15 名] ・看護・医療系合格者数 60 名以上[57 名] ・大学入試共通テスト受験者数 20 名以上[16 名]	ア、「コース・科目選択への取り組み」満足度 (84.5%) (△) 『昨年度より 3.8%低下し、目標には達しなかった。原因を分析し、ガイダンス等の見直しを行う』 イ、国公立・難関私立大学(関関同立・産近甲龍)の合格者数 (15 名) (△) ・幼児教育・保育系合格者数 (17 名) (◎) ・看護・医療系合格者数 (51 名) (△) ・大学入試共通テスト受験者数 (26 名) (◎) 『国公立・難関私立大学の合格者数は、目標には届かなかったが、昨年度より大きく増加した。また看護・医療系の合格者数も目標には届かなかったが、50 名を超え、評価できる』
	(3) 生徒一人ひとりに対して丁寧で細やかな指導を行い、夢の実現を支援し、生徒・保護者の満足度を向上させる	ア、志学・道徳教育・人権教育・キャリア教育・進路指導を系統的に結合したキャリア教育「ひねのプログラム」を活用し、生徒の能力を伸ばす イ、分野別進路説明会を開催するとともに、進路に特化した専門学校等の講師を積極的に招聘し、講習、講和の機会を確保し、進路の実現を支援する ウ、魅力ある教育活動や進路実現を提供し、もっと入りたい学校の実現をめざす。また、広報活動を積極的に行い、入学志願者を確保する	ア、生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方をよく考える機会」90%以上を維持[94%] イ、外部講師による特別授業等年 30 回以上を維持[47 回] ウ、入試志願倍率 1.15 倍以上を維持[1.19 倍]	ア、「進路選択やキャリア教育」に関する満足度 (91.0%) (○) 『昨年度よりは 3.0%低下したが、依然として高い数値を示している』 イ、外部講師による特別授業等 31 回 (○) 『今年度、カリキュラムの変更で、保育・幼児教育に関する講師の招聘が減少したが、目標は達成できた』 ウ、入試志願倍率 (1.09 倍) (△) 『大阪府の公立高校全体の志願倍率が大きく低下する中、比較的多くの志願者を得た。目標には届かなかったが、学校の魅力づくり、広報活動が効果を上げた』

## 府立日根野高等学校

2. 豊かでたくましい人間性をほぐす	<p>(1) 人権・多様性を尊重する教育を推進し、差別やいじめを許さない意識、なくす実践力を育てる</p>	<p>ア、「大阪府いじめ防止基本方針」に従い、全校でいじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組む イ、社会性にも繋がる生活習慣の確立、挨拶の励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成等を図る ウ、障がい者・女性・子ども・同和問題・在日外国人・性的マイノリティ等様々な人権に関わる問題の解決をめざした教育を推進する</p>	<p>ア、生徒向け学校教育自己診断「いじめに真剣に対応」85%以上を維持[89%] イ、のべ遅刻者数/4-12月 3,200人以下[3,632人] ウ、人権学習を各学年3回以上実施[1年(7回)2年(3回)3年(5回)]</p>	<p>ア、「いじめに対する対応」満足度 86.9% (○) 『昨年度よりは2.3%低下したが、目標を上回り、依然として高い満足度を示している』 イ、遅刻者数(4~12月) 4398人(△) 『昨年度から大きく増加し、目標に届かなかった。様々な取組みを行ったが、増加に歯止めがかからない。次年度に向けて更なる取組みを検討する』 ウ、人権学習実施回数 1年(7回)2年(3回)3年(5回)(○) 『計画通り人権学習を実施し、目標を達成した』</p>
	<p>(2) 急速な情報化の進展に伴うインターネットトラブルの増加に対して、正しい情報モラルを育成し、望ましい人権意識を育てる</p>	<p>ア、インターネット上の諸問題に対し、教科「情報」の授業やHR等を通して指導しトラブルを未然に防ぐ イ、保護者と教職員とが連携を深め、学校、保護者、地域が一体となった人権教育の充実を図る</p>	<p>ア、生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった」82%以上[81%] イ、保護者向け学校教育自己診断「相談に適切に対応」85%以上を維持[91%]</p>	<p>ア、「命の大切さ、社会のルールを学ぶ機会」に対する満足度 80.4% (△) 『目標値にはわずかに届かなかったが、長期的に見れば改善傾向にあり、高い満足度といえる』 イ「保護者の相談への適切な対応」の満足度 85.6% (○) 『昨年度より5.7%低下をしたが、目標値を上回っており依然として高い満足度である』</p>
	<p>(3) 部活動、学校行事、ボランティア活動等への参加を通して、生徒の自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育成する</p>	<p>ア、地域の施設等とも連携し、発信・発表の場を多く設けることで、生徒が社会の一員としての自信と自覚を深め、社会貢献の意義と尊さを理解させる イ、部活動、学校行事を活性化し、生徒が自主的に活動、運営することにより、自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育てる ウ、生徒会活動等を通して、生徒の自主性・自律性を育成し、生徒が主体的に自己実現を図る力を育てる</p>	<p>ア、校外での上演、展示回数 6回以上[9回] イ、部活動加入率 58%以上[55%] ・生徒向け学校教育自己診断「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」85%以上を維持[88%] ウ、生徒向け学校教育自己診断「先生の指導は納得できる」80%以上[79%]</p>	<p>ア、校外での上演、展示回数 18回(◎) 『吹奏楽部を中心に、書道部、演劇部、美術部で多くの活動があり、目標を上回った』 イ、部活動加入率 45.2% (△) 『今年度、いくつかの取組みを行ったが、減少に歯止めがかからない、次年度に向けてさらなる検討を加え、改善策を講じる』 ・「生徒の学校行事」に対する満足度 81.9% (△) 『昨年度より6.4%低下し、目標に達しなかった。生徒の意見も取り入れ、改善を図る』 ウ、「生徒の指導に対する」納得度 73.9% (△) 『昨年度より5.2%低下し、目標値には届かなかった。しかしながら他校と比して依然として高い数値である。次年度に向けて、更なる取組みを行う』</p>
	<p>(4) 保護者へ情報提供を積極的に行うと共に、保護者等の意見を教育活動に取り入れ、開かれた教育活動を推進する</p>	<p>ア、多様な手段を用いた情報発信を行うとともに、情報収集を積極的に行い、意見を反映した学校経営を行う</p>	<p>ア、保護者向け学校教育自己診断「教育活動に関する満足度」(全項目の平均) 85%以上を維持[85%] ・保護者向け学校教育自己診断「教育情報についての提供努力」満足度 90%以上を維持[91%]</p>	<p>ア、「保護者の教育活動全般」に対する満足度 83.6% (△) 『昨年度より1.5%低下し、目標値にはわずかに届かなかったが、依然として高い満足度を示している』 ・「保護者の教育情報提供」に対する満足度 88.8% (△) 『昨年度より1.9%低下し、目標値にはわずかに届かなかったが、依然として高い満足度である』</p>

## 府立日根野高等学校

3. 安全で安心な学び場を作るとともに、働き方改革を実現する	(1) 障がいのある生徒への理解を深め、SCとの連携を図りながら合理的配慮や自立の支援を行う体制づくりを行う	ア、支援を要する生徒について個別の支援計画を作成し、生徒一人ひとり教育的ニーズを把握し、効果的な指導、支援の充実を図る	ア、転、退学者数5名以下 [7名]	ア、転、退学者数 17名 (△) 『 <u>登校に課題を抱える生徒が急激に増加している。様々な支援活動を実施し、転・退学の防止に努めた</u> が、 <u>目標を達成できなかった。次年度に向けて更なる対応策を検討する</u> 』
	(2) 生徒が相談しやすい体制を構築し、関係機関と連携を深めながら、生徒支援体制の充実を図る	ア、体罰やハラスメント・ネット被害・ストーカー被害等に係る相談などに対する相談体制を構築し、生徒に寄り添う学校づくりを進める	ア、生徒向け学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」78%以上[77%]	ア、「生徒の教育相談」に対する満足度76.5% (△) 『 <u>昨年度から0.3%低下したが、昨年度大きく上昇した流れを維持することが出来ている。他校の数値と比べても、とても高い満足度といえる</u> 』
	(3) 危機管理を徹底し、安全で安心な学び場づくりを推進する	ア、講習会等を定期的に行い、感染症、薬物中毒、食中毒等の予防や防止、熱中症や食物アレルギー等による事故防止に取り組む イ、地震や台風などの自然災害に備えた体制を充実させ、避難訓練の実施等を通して防災教育に取り組む	ア、教職員向け講習会及び生徒向け講習会を各1回以上[1回] イ、火災と地震を想定した避難訓練を各1回実施する[火災1回、地震1回]	ア、教員向け及び生徒向け講習会を1回ずつ実施 (○) 『 <u>計画通り実施をし、目標を達成した</u> 』 イ、6月に火災を想定した訓練を、10月に地震を想定した訓練を1回ずつ実施した。(○) 『 <u>計画通り実施をし、目標を達成した</u> 』
	(4) 教員の働き方改革に取り組む	ア、業務の電子化を進め、事務作業量を軽減するとともに、会議の精選、会議時間の短縮を行い、校務運営の効率化に取り組む イ、全校一斉退庁日の取り組みを推進し、教職員の時間外在校時間の縮減を図る	ア、「学校ストレスの総合リスク値」95以下を維持 [87] イ、「時間外在校時間」27時間以内を維持[27時間]	ア、「学校ストレスの総合リスク値」84 (◎) 『 <u>3年間連続で80台を示しており、働きやすい職場の実現が計れている</u> 』 イ、時間外在校時間 25時間 (◎) 『 <u>校務の電子化や会議の縮減を図り、働き方改革が大きく進み、目標を大幅に上回った</u> 』